



着任会見で、抱負を述べる山崎敏充長官＝30日、名古屋高裁で

「三英傑輩出の地に興味」

山崎新長官が 名古屋高裁に着任

名古屋高裁の山崎敏充長官(六〇)が三十日着任し、会見した。東海地方での勤務は初めてで「名古屋は町に活気があり、明るい印象。三英傑を輩出した地に興味をひかれる。大変光栄だ」と述べた。

大阪府八尾市出身、東京大法学部卒。那覇地方・家庭裁判所石垣支部判事補や東京地裁判事などを経て、千葉地裁所長、最高裁事務総長を歴任した。

最も印象に残る仕事に挙げたのは、三十代半ばの石垣支部判事補時代。沖縄・八重山諸

島ただ一人の裁判官として「刑事も民事も家事も少年もすべて一人で担当し、悩みながら打ち込んだ。裁判官としての原点」と語った。最高裁事務総長だったときに東日本大震災が発生し、事務方トップとして職員の安否確認や裁判所の復旧を支援した。

名古屋高裁では、名張毒ぶどう酒事件や前川事件など著名事件の再審請求が相次ぐ。「科学的な証拠に十分関心を持ち、研究する必要性を感じている。

ただ、裁判官はこつこつと証拠をしっかりと見て、事実認定するしかない」と話した。